新潟県 教育月報 4月号

第843号
令和２年４月１日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

＜今月号の記事＞

			対象校種
１：教育ニュースライン	------	Ｐ１	全種
２：令和２年度小・中・義務教育・特別支援学校における「学校教育の重点」について	------	Ｐ２～３	小中義特
３：「児童生徒が主役」となる特別活動の充実を	------	Ｐ４	小中
４：「第３次新潟県生涯学習推進プラン」について	------	Ｐ５	全種
５：佐渡金銀山世界遺産登録に向けて	------	Ｐ６	全種
６：埋蔵文化財センターでの校外学習・キャリア教育について	------	Ｐ７～８	小中
７：24年目を迎える「はつらつ体験塾」で豊かな体験を！	------	Ｐ９	小中
８：県社会教育施設、文化施設等による学習支援	------	Ｐ10～14	全種
９：インフォメーション	------	Ｐ15～16	全種

教育ニュースライン

県教育に関する最新ニュースをお知らせします。

「新潟県いじめ対応総合マニュアル」

県教育委員会では有識者による「いじめ対策等検討会議」において協議を重ね、現行の「新潟県いじめ対応マニュアル」に、被害・加害生徒の保護者との連携等を加えた「県立学校編（改訂版）」を作成しました。

また、県教育委員会と市町村教育委員会とのより一層の連携を図り小中学校を支援することができるよう「小・中学校編」も新規作成し、「県立学校編（改訂版）」と合わせて、成長段階に応じた一貫したいじめ対応を推進する「新潟県いじめ対応総合マニュアル」としました。

保護者や地域と連携し、いじめから児童生徒を徹底して守る体制の充実のために、本マニュアルの自校化や研修会での活用をお願いします。

教育の情報化に向けた環境整備

今年度より順次実施される「新学習指導要領」においては、情報活用能力を言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基礎となる資質・能力」と位置付け、育成を図るとともに、学校のＩＣＴ環境整備とＩＣＴを活用した学習活動の充実が明記されています。

文部科学省では、教育の情報化を円滑に推進するため「教育の情報化の手引き」などを作成するとともに、令和時代のスタンダードな学校像として「ＧＩＧＡスクール構想」を示し、生徒１人１台端末及び高速大容量の通信ネットワークの整備等を推進しています。

それを受け、県教育委員会では、今年度県立学校の普通教室等への無線ＬＡＮの整備を、今年度から令和５年度までに中等教育学校及び特別支援学校の義務教育課程における学習用端末の１人１台化を目指して整備を進めていきます。

また、教員自身が授業内容や子どもの姿に応じてＩＣＴを活用しながら授業設計をできるよう、県立教育センターにおいて、「ＩＣＴを活用した授業づくり講座」や「小学校プログラミング教育推進講座」などを通して、情報教育及び教科指導におけるＩＣＴ活用について充実を図っていきます。

令和２年度小・中・義務教育・特別支援学校における「学校教育の重点」について

義務教育課

はじめに

義務教育課では、今年度も「学校教育の重点」を作成し、教職員一人一人がいつでも活用できるよう、全教員に配付しました。各学校では、職員研修等で共通理解を進め、今年度も教育活動の充実を図るようお願いします。

概　要

新しい学習指導要領が、いよいよ小学校等で全面実施となりました。（中学校等は令和３年度、特別支援学校は小・中・高等学校に合わせて実施）

学習指導においては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「授業改善」を重視しています。

授業改善では、「児童生徒が主体的に学習に取り組めるようにすること」、「（教師の）授業力がより向上すること」を２つの柱としました。

授業改善を進めるうえで重要な学習評価が、小学校等では今年度から３観点での評価となります。以前から言われている「指導と評価の一体化」をより充実させる必要があります。学習評価を、教師の指導改善と児童生徒の学習改善にしっかりとつなげ、資質・能力の育成を目指しましょう。

生徒指導においては、「いじめをしない、許さない、命を大切にする意識の醸成」に向けた「道徳教育」、「特別活動」、「人権教育、同和教育」を重視しています。

学習指導、生徒指導を進めていく上で、児童生徒相互の人間関係が良好であることが重要です。そして、この関係は、授業を要とした、児童生徒が主役となる教育活動において育成されます。

当然のことですが、教師主導で一方的な授業ばかりをしていてはそのような関係は育ちません。児童生徒が主体的に取り組めるような学習活動を取り入れることが必要です。また、学習環境づくりや授業規律の定着等の際に、児童生徒に判断する機会を与えたり、主体的な活動を温かく見守ったりするなど、児童生徒の活動を前面に出し、一緒につくり上げていくという教師の姿勢が大切です。

そして、安心感のある教室では、互いの良さや違いが理解できるようになり、認め合い、励まし合い、磨き合う活動がより活発になります。

特別支援教育の視点である「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援」を大切にし、「授業が要」、「児童生徒が主役」の教育活動を常に心がけていきましょう。

おわりに

「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業、児童生徒主体の活動、この２つに焦点化し、児童生徒の健やかな成長のために、質の高い教育を提供していきましょう。

令和2年度　学校教育の重点　小・中・義務教育・特別支援学校　新潟県教育委員会

ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦し、
未来を切り拓いていける、たくましいひとづくり

「主体的・対話的で深い学び」の実現

授業改善

児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう、すべての教科等で、見通し・振り返りの学習活動を取り入れるなど、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりに全校体制で取り組む。

授業力がより向上するよう、お互いの授業を参観し合う中で教材研究を深め、児童生徒の学びの姿から、適した指導方法を授業に取り入れるなど、指導の改善に努める。

「指導と評価の一体化」を図り、目指す資質・能力を確実に育成する。

いじめをしない、許さない、命を大切にする意識の醸成

道徳教育

思いやりをもち、自己や他者、社会にとってよりよい判断ができるよう、ねらいに即した多様な指導方法を取り入れるなど、「考え、議論する道徳」を推進する。

特別活動

他者への理解を深め、集団や社会における人間関係をよりよく形成することができるよう、学級活動や児童会・生徒会活動での話合いを大切にするなど、児童生徒主体の活動を推進する。

人権教育、同和教育

差別を許さず、自他を大切にして行動できるよう、「生きる」を活用するなど、同和教育を中核にした人権教育を推進する。

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援

地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり

2年度
- ○小学校等 新学習指導要領 全面実施
  ・外国語導入、プログラミング教育必修化
- ○キャリア・パスポート導入
- ○大学入学共通テスト開始

3年度
- ○中学校等 新学習指導要領 全面実施

4年度
- ○高等学校等 新学習指導要領 年次進行で実施
  ・「公共」、「情報Ⅰ」などを必修科目として新設

「児童生徒が主役」となる特別活動の充実を

義務教育課

はじめに

県教育委員会では、学校教育の重点の一つに特別活動を定め、「他者への理解を深め、集団や社会における人間関係をよりよく形成すること」とし、「児童生徒主体の活動を推進する」としています。

キーワードは「児童生徒が主役」です。

ここでは、特別活動の核となる、「学級づくり」について考えていきましょう。

児童生徒が主役となる学級づくり

１　教師がやるべきこと

学習指導要領の学級活動の目標では、合意形成や意思決定等の実践に、自主的、実践的に取り組み、特別活動における資質・能力の育成を目指す、とあります。「児童生徒が主役」とは、この「自主的、実践的な取組」を指します。教師は何をすればよいのでしょうか。次の３つの働きかけが重要です。

①　子どもに共通の夢や目当てをもたせること
②　準備を整え、子供に任せること
③　活動をチェックし、ていねいにほめること

また、何よりも大切なことは、教師自身がその手本となることです。教師自身が誠実であり、聞き上手・ほめ上手であり、そして自身の夢や願いを子どもたちに語っていくことこそ、児童生徒が主役となる学級づくりの第一歩です。

２　どのような集団を育てるか

「児童生徒が主役」となる学級集団とは、どのような集団なのでしょうか。次の２つが重要であると考えます。

①　勉強や生活がしやすく、そこにいるとやる気がでる。
②　皆、平等に個性を認め合っており、そこにいると安心できる。

大切なのは、話し合いや係活動等の実践をとおして「やる気」や「安心」のある集団を育てることです。そして、そのような集団であってはじめて「児童生徒が主役」として活躍できるのです。教師は、このような集団を目標としましょう。

学級びらきのポイント

「児童生徒が主役」となる学級づくりにおいて、この４月は極めて重要な意味をもちます。このいわゆる「学級びらき」の期間に、担任は何をすればよいのでしょうか。次に、いくつかのポイントを示します。

①　一日の出会いをあたたかく迎える。
②　担任の願いを明示し、子ども（保護者）と共有する。
③　一日のよかったこと、残念だったことを丁寧に伝える。
④　組織づくり・活動づくりは急がない。意義や必要性を子どもと共有する。
⑤　飾り物でない学級目標を立てる。
⑥　この時期に必要最低限の生活規律、学習規律を身につけさせる。

「あたたかく迎える」には、具体的に何をすればよいでしょうか。一人一人の名前を呼ぶ等、様々な工夫が考えられます。形式的な学級びらきにならないよう、①～⑥を参考に、実践を具体化してください。

おわりに

今年の４月は、新型コロナウイルス感染症の影響で、今までにない慌ただしさや対応が必要であると想定されます。だからこそ、何が大切かを教師が見極め、余計なものをそぎ落として、子どもと過ごす時間を大切にしてください。そして、「児童生徒が主役」となる特別活動の充実を目指しましょう。

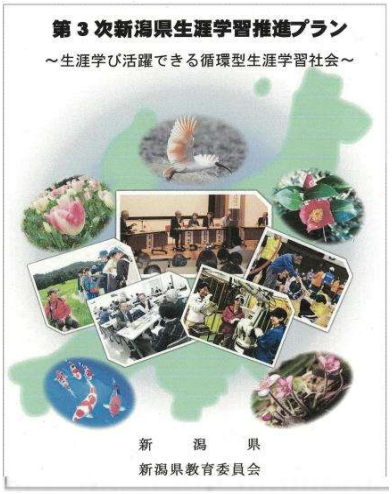
「第３次新潟県生涯学習推進プラン」について

生涯学習推進課

策定の趣旨

「第３次新潟県生涯学習推進プラン」は、これまでの取組による成果と課題や社会情勢の変化等を踏まえ、「第２次新潟県生涯学習推進プラン（改定版）」を見直し、新潟県らしい生涯学習社会の実現に向けた今後の生涯学習推進行政の基本を示したものです。

「新潟県総合計画 ～住んでよし、訪れてよしの新潟県～」との整合を図るとともに、「新潟県教育振興基本計画」等、生涯学習に関連する各種の計画を踏まえながら、新潟県の生涯学習推進施策の基本方向を示しています。



生涯学習社会の基本的な考え方

○　基本目標

「生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会」

(1) 本県の目指す「生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会」

本県は、人口減少・少子高齢化社会を踏まえ、学習機会の一層の充実を図るとともに、学んだ成果が地域課題解決のために有効に活用され、更なる学びへと発展する「循環型の生涯学習社会」実現に向け、取組を強化していく必要があります。

また、近年、経済社会情勢の変化や地域のニーズに対応するため、新たな知識や技術の習得の必要性が高まっており、社会人の学び直しの機会の拡充を図っていく必要があります。

県民が、「だれでも、いつでも、どこでも」学べるよう、社会教育施設をはじめ様々な学習機会を充実させるとともに、人づくり、地域づくりに取り組み、学んだ成果を地域の諸課題の解決に有効に活用するなど、生涯にわたり学び活躍できる循環型の生涯学習社会の実現を目指します。

(2) 生涯学習の理念

ア　「だれでも・いつでも・どこでも」学べる社会

イ　学習成果が適切に活かされ評価される社会

推進プランの実施にあたって

学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、地域はコミュニティの維持・再生が急務となっています。こうした中、学校を地域の拠点として社会全体で支援する取組が進められています。

学校と地域とがパートナーとして相互に連携・協働し、学びのセーフティネットとしてのそれぞれの役割も含め、地域の教育力を活かした学校支援と学校の力を活かした地域づくりを一体的に推進するための組織的・継続的な仕組みづくりが求められています。

プランでは、学校と地域の連携・協働体制の構築、放課後・土曜日等の学習支援、地域連携を担当する教員の活動支援など様々な重点施策を掲げ、方向性を示しております。

ぜひ、本プランをお読みいただき、日々の教育活動に御活用いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

※詳細は以下のURLを御参照ください。
https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/syougaigakusyuusuisinplan3.html

佐渡金銀山の世界遺産登録に向けて

佐渡を世界遺産に

文化行政課

はじめに

佐渡金銀山は、金銀を豊富に産出し続けた我が国を代表する鉱山であり、当時の金銀生産に関わる伝統的な技術や人々の暮らしを「タイムカプセル」のように今に伝える、世界に誇る我が国の宝です。

県と佐渡市は、この歴史的遺産を人類共通の財産として守り、次世代へ継承していくため、世界文化遺産の登録を目指して取組を進めています。

世界遺産登録への取組

佐渡金銀山は平成22年度に世界遺産暫定一覧表に記載され、正式な世界文化遺産候補となりました。

平成27年度から国内推薦候補の選定に挑戦してきましたが、残念ながら、これまで推薦は実現できていません。しかし、文化庁は令和元年度の国内候補選定にあたり、佐渡金銀山について比較研究の精度などで一定の進展が見られるとし、今年度の推薦候補として現時点で「最有力」との見方を示しました。

ガイダンス施設「きらりうむ佐渡」

平成31年４月に、佐渡市相川にガイダンス施設「きらりうむ佐渡」がオープンしました。映像や展示で金銀生産の様子を分かりやすく紹介しています。

【「きらりうむ佐渡」の展示室の様子】

出前授業の実施

県では、佐渡金銀山の歴史や価値を県内の小・中学生に伝えるため、出前授業を実施しています。令和元年度は県内の121校の小学校で実施しました。

授業ではこんなことをお話しします。

◇ 世界遺産って何？
◇ 佐渡金銀山は、全部でいくつある？
◇ どうやって金や銀をとっていたの？
◇ 江戸時代だけじゃない？今も残る明治以降の近代化遺産を知ろう！　など

４月に市町村教育委員会をとおして、各学校に案内を配布します。

修学旅行の事前学習としての活用のほか、通年で実施していますので、社会科の授業や総合学習などに幅広く御活用ください。

【講師が持参する佐渡小判（複製品）に子どもたちは目を輝かせ、毎回盛り上がりを見せています】

おわりに

世界遺産登録は、貴重な歴史遺産を未来へ引き継いで行くことが目的です。将来、遺産を守り伝えていく役割を担う子どもたちに、教育活動を通じて佐渡金銀山の価値を伝えていけるよう、御協力をよろしくお願いします。

はじめに

【お問い合わせ】
文化行政課世界遺産登録推進室
TEL 025-280-5726 FAX 025-280-5764

埋蔵文化財センターでの校外学習・キャリア教育について

新潟県埋蔵文化財センター・文化行政課

はじめに

新潟市秋葉区にある県埋蔵文化財センターでは、県内の遺跡発掘調査によって見つかった出土品の整理作業や収蔵管理、出土品の展示等の普及事業を行っています。センターに隣接して国史跡古津八幡山遺跡があり、復元された竪穴住居に入ったり古墳に登ったりすることができます。また、新たに国史跡になった新津油田金津鉱場跡や、金津層の露頭も近くにあり、センターの出土品と合わせ見ることで、本物の歴史学習ができる環境にあります。

当センターでは小・中学生を対象とした社会科歴史の学習支援や、職場見学によるキャリア教育の支援を行っています。

本号では、平成31・令和元年度に行った校外学習やキャリア教育の内容と、その成果について紹介します。

校外学習・出前授業の内容と効果

校外学習は、歴史を学び始めた児童生徒が、本物の土器や石器を見たり触れたりすることによって、実際にある歴史を体感しながら学んでいただくことを目的とします。センターを丸ごと教材として位置付け、歴史学習や体験学習、キャリア教育の支援ができるようプログラムを作成しています。また、出前授業はセンターへの来館が難しい学校に対応して、職員が学校に出向いて歴史解説をするほか、体験学習も行うことができます。土器や石器など数多くの本物を持ち込むため、学校にいながらセンターの校外学習と同様の学習を体験いただけます。

歴史学習では、本物の縄文土器・弥生土器・平安時代の須恵器の破片を手に取って、時代の変遷とともに土器の作り方や形が変化することを知っていただきます。また、完形の縄文土器を持って、土器の重さや煮炊きによる内面のコゲ付きを観察します。さらに、画像で実際に発掘された縄文時代の村や復元された竪穴住居、自分の学校のまわりにある遺跡を紹介します。多くの児童生徒は身近に遺跡があることに驚きます。遺跡や遺物をとおして歴史と現代生活との結びつきを実感することができます。

【縄文土器を持ってみよう】

体験学習には、石器の切れ味体験、火起し体験、勾玉作り体験があります。石器の切れ味は、黒曜石製の複製石器で新聞紙を切ることで、金属器のない時代に使われた石器の有効性を知っていただきます。火起こし体験は、マイギリという道具を使い、板に木の棒を回転させて火を起こします。最も人気の高い体験で、火を使う機会が少ない児童が火の大切さを知る機会となっています。勾玉作りは、縄文時代から使われた柔らかい滑石を紙やすりで削って作ります。持ち帰ることができますので、自宅でも古代人のおしゃれを想像することができます。

【左：石器の切れ味体験、右：勾玉作り体験】

キャリア教育の支援

キャリア教育支援のために、職場見学を実施しています。調査員室や保存処理室などのバックヤードで土器の復元や実測、木製品・金属製品の保存処理など実際の仕事の様子を見学します。こうしたセンターならではの仕事をとおして郷土の歴史が明らかになり、県民に伝わる過程を目の当たりにすることができます。普段は見ることができない仕事や施設を見学することは、児童生徒にとって大きな刺激になると考えています。

【調査員室における土器の復元作業】

＜児童の感想＞

・初めて本物の土器や縄文人の道具をさわり、縄文人は器用で、すごいなと思いました。

・土器の種類がたくさんあることや縄文土器が思った以上に重くてびっくりしました。

・黒曜石で新聞紙を切ったときはあまりの切れ味にびっくりしました。今のカッターよりもよく切れたと思いました。

・火起こし体験では昔の人の苦労と火の大切さを学びました。(火を) 大切に使いたいです。

・勾玉作りでは作り方を分かりやすく教えてくださったおかげでうまく作れました。勾玉は昔どのように使われていたか話を聞きわかりました。

・奈良時代の硯に驚きました。今知っている硯は四角なのが、昔は円い硯を使っていることに驚きました。

・一番驚いたのは土器をくっつけているところです。細かい部品に一つ一つ数字が書かれていてすごく繊細な作業だと思いました。

・保存処理室では埋蔵物（木製品）の水分を砂糖に換え「国民全員の物」の形や姿を守っていることがわかりました。

実績

令和元年度は、校外学習は減少、出前授業は増加しました。学校への周知を積極的に行い、利用を促していきたいと思います。

表１　小・中学校の校外学習・出前授業・職場体験の校数と内訳

区分	28年度	29年度	30年度	31･1年度
校外学習	34	36	44	36
小 学 校	新潟市 26 加茂市 1 村上市 1 燕市 1 五泉市 1 阿賀野市1 弥彦村 1	新潟市 29 燕市 1 五泉市 1 阿賀町 3	新潟市 34 燕市 1 五泉市 2 佐渡市 1 阿賀町 4	新潟市 31 燕市 1 五泉市 1 阿賀野市1
中 学 校	新潟市 1	新潟市 2	新潟市 1	新潟市 2
高　校			群馬県 1	
特別支援	阿賀野市1			
出前授業	16	12	10	12
小 学 校	新潟市 8 柏崎市 1 燕市 1 五泉市 3 阿賀野市2	新潟市 6 燕市 1 五泉市 1 阿賀野市2 妙高市 1	新潟市 5 加茂市 1 五泉市 1 阿賀野市1	新潟市 8 長岡市 1 新発田市1 十日町市1
中 学 校		新潟市 1	新潟市 1 長岡市 1	三条市 1
高　校	新潟市 1			
職場体験	3	3	3	4
中 学 校	新潟市 2	新潟市 3	新潟市 3	新潟市 4
特別支援	阿賀野市1			

おわりに

センターが実施する校外学習・出前授業・キャリア教育について、ぜひ御要望をお聞かせいただきますよう、お待ちしております。

24年目を迎える「はつらつ体験塾」で豊かな体験を！

県少年自然の家

はじめに

「はつらつ体験塾」は県少年自然の家で行っている「不登校及び不登校傾向のある小・中学生のための宿泊型体験活動（キャンプ）」です。自然体験と共同宿泊体験をとおして集団への適応性を高め、エネルギーを充電し、学校復帰への足がかりとすることを目的にしています。平成30年度は参加した子どもの約９割に学校復帰または現状の改善が見られました。子どもたちはキャンプを通じ様々な経験を重ねることで自信をもち、新たな一歩を踏み出すことができるようになっています。

今年度で24年目を迎える当事業について紹介します。

時代の変化と共に見直しを図る

開始以来、「はつらつ体験塾」の目的を達成するために、キャンプの回数や日程、開催場所について、その都度見直してきました。

今年度の「はつらつ体験塾」も、子どもたちの登校や適応指導教室への通級に配慮し、泊を伴うキャンプはすべて土日に、計９回開催します（表１）。今年度から、初参加者もより気軽に参加できるよう、スマイルキャンプを日帰りとしました。

表１　令和２年度「はつらつ体験塾」日程

回・会場	キャンプ名	期　日	主な活動
第1回 県少年自然の家（胎内市）	スマイルキャンプ	5月16日（土）	クッキング キャンプファイア グラウンド・ゴルフ カヌー・つり体験 等
	フレンドリーキャンプ	6月13日（土）～14日（日）	
	チャレンジキャンプ	7月11日（土）～12日（日）	
第2回 国立妙高青少年自然の家（妙高市）	スマイルキャンプ	9月19日（土）	源流探検 クッキング ハイキング 妙高アドベンチャー 等
	フレンドリーキャンプ	10月24日（土）～25日（日）	
	チャレンジキャンプ	11月21日（土）～22日（日）	
第1回 県少年自然の家（胎内市）	スマイルキャンプ	12月12日（土）	クッキング 雪遊び体験 どんど焼き お別れ会 等
	フレンドリーキャンプ	1月　9日（土）～10日（日）	
	チャレンジキャンプ	2月　6日（土）～　7日（日）	

平成29年度から、本キャンプとは別に、家族や適応指導教室単位でも参加できる「日帰りミニキャンプ」を２回実施し、気軽に体験できる機会をつくりました。保護者や指導員にキャンプの実際の様子を知っていただく良い機会にもなりました。このキャンプをきっかけとして、その後の「はつらつ体験塾」に参加するようになった子どももいます。今年度も２回実施します（表２）。

表２　令和2年度「はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ」日程

キャンプ名	回	期　日	会　場	主な活動
はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ	第1回	8月23日（日）	五頭連峰少年自然の家（阿賀野市）	野外炊飯 沢登り
	第2回	10月　7日（水）	新潟県少年自然の家（胎内市）	クッキング 野外ゲーム

大切にしていること

「はつらつ体験塾」では、大切にしていることが２点あります。１点目は活動プログラムの構成です。プログラムは「人とのかかわり」「自主・自立」「感動、成就感・達成感」のある三つの活動で構成されています。例えば、「野外炊さんで人とかかわってカレーを作ること」「自分の体調を考えて食事や就寝をすること」「自分の力でカヌーを漕いで進み、戻ってくること」などです。活動の目標を明確にし、価値ある体験ができるようにしています。

【野外ゲーム】

【アウトドアクッキング】

２点目は大学生ボランティアによる支援です。大学生ボランティアは子どもの様子に合わせて、見守り、励まし、助けます。それによって子どもは意欲や自信をもつようになります。大学生ボランティアには、毎回キャンプ前に事前研修会を行い、ボランティアの心得や役割、参加する子どもについての情報等を確認し、対応の基本を理解させ、適切に子どもたちを支援できるようにしています。

おわりに

今年度も、一人でも多くの不登校および不登校傾向のある子どもが「はつらつ体験塾」で豊かな体験を積み、学校復帰へのエネルギーを高めてほしいと思っています。

県社会教育施設、文化施設等による学習支援

新潟県少年自然の家、県立図書館、県立生涯学習推進センター、県立近代美術館・万代島美術館、新潟県埋蔵文化財センター、県立文書館、新潟県政記念館

はじめに

県社会教育施設、文化施設等では、学校や児童生徒に対する様々な学習支援を行っています。ぜひ御活用ください。

新潟県少年自然の家

令和２年度の主な主催事業を紹介します。

１　チャレンジわんぱく

小学４年生から６年生を対象としたキャンプ。自然体験や集団宿泊体験をとおして、さまざまなことを学びます。基本的生活習慣が身に付いたり、人を思いやることや人と協力することの大切さを実感することができます。

期日：第１回　７月23日(木)、24日(金)
　　第２回　９月26日(土)、27日(日)
　　第３回　１月23日(土)、24日(日)

２　一緒にお泊まりキャンプ in たいない

園児(年中・年長)とその保護者を対象としたキャンプ。自然体験活動をとおして親子のきずなを深めたり、座談会をとおして子育ての悩みを共有します。

期日：第１回 10月24日(土)、25日(日)
　　第２回 10月31日(土)、11月１日(日)

３　国際交流サマーキャンプ

留学生と中高生を対象としたキャンプ。交流をとおして、異文化理解を深めます。外国語の学習に特化したキャンプではありませんので気軽に参加することができます。

期日：８月20日(木)、21日(金)

４　中学生リーダーシップ研修

中学校の生徒会リーダーを対象としたキャンプ。講義、演習、交流をとおして、リーダーとしての資質を高めます。

期日：12月25日(金)、26日(土)

○ 新潟県少年自然の家
〒959-2602 胎内市乙字大日裏
TEL 0254-46-2224
URL https://www.pref.niigata.lg.jp/shizen/

県立図書館

県立図書館では窓口での調査相談・貸出・複写などのサービス以外にも学校に対する各種支援や児童・生徒の読書活動推進のための事業に取り組んでいます。

１　ユースコーナーの設置

勉強法や語学に関する本のほか、中高生に人気の文学作品、進路選択に役立つ大学や留学案内もあり、若い世代を中心に利用されています。

２　調べ学習への対応

学習の目的、テーマなどに合わせ、調べ学習のお手伝いをします。また、図書館の利用ガイダンスや資料の探し方の説明も行います。

３　グループ学習への支援

閲覧室の中に20人程度まで収容可能な共同研修室があり、各種の学習活動などに御利用いただけます（団体登録制・無料）。児童生徒のグループ学習のほか、教職員の勉強会にも御活用いただいています。

４　施設見学及び職場見学の受入れ

学校の社会科見学等の一環として、児童・生徒を対象にした見学ツアーを行っています。見学では閲覧室などで図書館の機能について説明するほか、司書の仕事についての質問もお受けします。

５　団体貸出サービス

昨年４月から団体貸出サービスを開始しました。活字による読書が困難な児童・生徒向けには、デイジー図書など音声や映像を含む資料も学校経由で一括申込みいただけます。また、学校などで読み聞かせを行う場合には、大型絵本等の資料や紙芝居舞台などを御用意しておりますので、ぜひ御活用ください。

【紙芝居舞台】

○県立図書館
〒950-8602　新潟市中央区女池南3-1-2
TEL 025-284-6001(代表) FAX 025-284-6832
URL https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/

県立生涯学習推進センター

県立生涯学習推進センターは、様々な学習情報や学習機会を県民に提供し、生涯学習を推進する機関です。

教職員対象にも、研修会指導者の紹介、視聴覚教材・機器の貸出、学校運営・授業にも役立つ各種研修会を行っています。ぜひ御活用ください。

１　「ラ・ラ・ネット」で検索！

「○○を指導してくれる人はいないか。」「こんな学習（講座）はどこかでやっていないか。」「保護者・地域住民向けの映像資料がほしい。」など、学習情報に困ったら、インターネットで「ラ・ラ・ネット」を開いてみてください。生涯学習情報が満載です。あなたの「知りたい」に出会えます。

２　「学習相談」をお寄せください

「『ラ・ラ・ネット』で調べてみて、もう少し、詳しいことを知りたくなった。」「この指導者と連絡を取りたい。」「ＰＴＡ行事の講演会の講師を紹介してほしい。」「コミュニティ・スクールを推進したいが指導者を紹介してほしい。」「視聴覚機材が足りないが貸してほしい。」などの具体的な相談は、電話で御相談ください。

３　地域と学校の連携・協働に係る研修会

これからますます重要になる学校と地域の連携・協働。社会や地域の要請、学校のニーズに応えるため、学校職員・ＰＴＡ会員・地域ボランティア・コーディネーターの方々が参加できる研修会を開催しています。

４　「カレッジ成果手帳」で学校・地域の連携を促進！

学校に来てくださっているボランティアさんなどが、活動を生涯学習の成果として記録をしていくことができる「いきいき県民カレッジ活用手帳」があります。ぜひ、御紹介いただいて、学校を大人も学ぶ場としていきましょう。

５　メディア研修や視聴覚教材活用

情報化の進展に対応した「メディア研修」、視聴覚教材コンクールの開催、登録団体に対して視聴覚教材・機材の貸出等を無償で行っています。

６　その他

各種研修会等のために「ホール（定員186名）」「大研修室（定員100名）」を貸出しています。
※市町村立学校は有料になります。

詳細は「ラ・ラ・ネット」を御覧ください。

○県立生涯学習推進センター
〒950-8602　新潟市中央区女池南3-1-2
TEL 代　　表　　025-284-6110
生涯学習相談　　025-284-6119
ラ・ラ・ネット（新潟県生涯学習情報提供システム）　https://www.lalanet.gr.jp/

県立近代美術館・万代島美術館

１　学習支援活動

県立近代美術館・万代島美術館では、子どもたちに美術作品の素晴らしさを伝えるとともに、コミュニケーション力、表現力、想像力、創造力の向上を目指した活動を推進しています。学習指導要領に記された「鑑賞」の内容を充実させるためにも、県立美術館をご活用ください。

①　対話型鑑賞・作品解説・その他

作品をみる力、想像する力、考える力、伝える力を引き出し、ひいてはコミュニケーション能力を育むことができる「対話型鑑賞」を行い、また展示中の作品や作家についてわかりやすく解説します。（対話型鑑賞は基本的に近代美術館で実施）

その他、ご相談に応じて施設見学や職場体験、総合的な学習なども承ります。

②　出張授業

学芸員が学校に出向き、鑑賞に関わる授業を行います。先生方の希望を受けて事前に打ち合わせをし、実施内容を決定します。展覧会に合わせて組んだプログラムをご紹介することもあります。（近代美術館で実施。万代島美術館の場合はお問い合わせください。）

また、児童・生徒だけでなく、教職員を対象とした、美術鑑賞に関する研修会講師も承ります。鑑賞に親しみ、子どもたちが積極的に楽しめる鑑賞方法をご紹介します。

２　学校等の観覧料免除制度

県立美術館では、小・中・高等学校の教育課程の一環として団体で来館される場合は、観覧料が免除されます。

小・中学校、中等教育学校前期課程、特別支援学校初・中等部については、「利用事前調査票」を一週間前までにご提出ください。

県内の高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部については、「観覧料免除申請書」と「利用事前調査票」を一週間前までにご提出ください。どちらの様式も各館Webページからダウンロードできます。

新潟県立万代島美術館（新潟市）は、展示替え期間中は全面休館となりますので、ご利用の際はお気をつけください。

【対話型鑑賞の様子】

○ 県立近代美術館
〒940-2083 長岡市千秋3-278-14
TEL 0258-28-4111
URL https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/

○ 県立万代島美術館
〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ 万代島ビル５階
TEL 025-290-6655
URL https://banbi.pref.niigata.lg.jp/

新潟県埋蔵文化財センター

県埋蔵文化財センターは、おもに小・中学校の歴史学習について校外学習の受け入れと、出前授業を実施して、中学生の職場体験も受け入れています。今年は一般の来館者用の体験を加えました。

１　校外学習の受け入れと出前授業

校外学習では縄文土器など本物の遺跡出土品を用いた歴史学習を行っています。また、火起こし体験や勾玉作り体験、石器の使用体

験などの体験学習と、土器の復元作業などを見学する職場見学を組み合わせ、総合的に歴史を学ぶメニューを用意しています。近隣にある国史跡古津八幡山遺跡史跡や、地層（金津層の露頭）の見学も行うことができます。

出前授業は職員が学校に出向いて歴史解説をするほか、体験学習も行うことができます。土器や石器など数多くの本物を持ち込むため、学校にいながらセンターの校外学習と同様の学習を体験いただけます。

【左：３種類の土器片　右：縄文人の道具箱（石器）】

２　職場体験

土器の接合や出土品の保存処理など、専門的な技術を要するセンターならではの仕事を体験するプログラムを用意しています。生徒にとって大きな刺激になると考えています。

３　利用案内

御利用にあたっては、校外学習・出前授業は実施日の14日前まで、職場体験は実施日の30日前をめどに申込書をファックスでお送りください。また、事前に打ち合わせをさせていただき、各校の希望に沿った内容となるよう計画いたします。詳細が決まりましたら、依頼文をお送りいただきます。各種様式はセンターWebの校外学習の案内及び各種申請書類のページを御覧ください。まずは、お電話にてお気軽にお問い合わせください。

４　縄文土器と記念撮影

５人以上の一般の団体見学の際に本物の縄文土器を持って撮影できる体験メニューを用意しました（要事前予約）。撮影した写真をＳＮＳにアップしよう！

【縄文土器と記念撮影】

○ 新潟県埋蔵文化財センター
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93-1
TEL 0250-23-1142
URL http://www.maibun.net/

県立文書館

県立文書館は、新潟県の歴史に関する資料を保存し、それらを活用していただくための機関です。

１　文書館の仕事

文書館は、収集した古文書・公文書を体系的に整理し、県民共有の財産として保存しています。整理された資料は、所定の手続きを行うと閲覧・利用ができます。

また、新潟県の歴史に関する資料についての保存相談と調査を行うとともに、当館所蔵の歴史資料を活用した企画展示や各種の講座などを開催しています。

２　学校教育とのかかわり

(1) 職場体験学習

キャリア教育支援の一環として、生徒の職場体験学習・職場訪問を受け入れています。資料の整理、修復など、文書館の仕事を体験することができます。

【職場体験（所蔵資料のクリーニングを行う様子）】

(2) 教材研究

明治～戦前の県内刊行新聞（複製）は、授業素材として利用することができます。また、授業の素材となる地域資料の所蔵の有無や、活用方法などの相談を受け付けています。

(3) Webページの利用

文書館Webページコンテンツ「越後佐渡ヒストリア」は、所蔵資料を用いた郷土史コラムで、授業の導入などに活用できます。

県立図書館と共同で運営している「越後佐渡デジタルライブラリー」では、県内の多くの歴史資料を画像で見ることができます。

○ 県立文書館
〒950-8602 新潟市中央区女池南3-1-2
TEL 025-284-6011
URL https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569

新潟県政記念館

明治16(1883)年に「新潟県会議事堂」として建設された県政記念館は、明治期の現存する唯一の府県会議事堂として国の重要文化財に指定されました。その貴重な建物を下記のような学びや学習の場としてご活用下さい。

１ 模擬議会

明治の雰囲気の中で議員になったつもりで意見を交してみて下さい。小・中学校、高校など議会の仕組みを学習する社会科で、また学級会、児童会など話し合いの場で活用して下さい。国の重要文化財の中で議論するという貴重な体験が好評です。

【白山小学校　6年生の様子】

２ 巡検・自主学習

明治の文明開化から昭和初期の新潟県、また新潟島と呼ばれる地域の歴史や文化などをグループや個人で学ぶことができます。館内見学は、職員が解説しながらの案内も可能です。

３ 文化部活動発表の場

合唱部、吹奏楽部等の発表の場として、議場で公演することができます(客席定員80名)。また、写真部等の展示も可能です。

【新潟中央高校コーラス部】

４ コンサートや各種企画展の開催

プロやアマチュアの音楽家によるコンサートや生け花などの多彩な企画展も随時開催しています。文化に親しむ場としてもぜひ訪れていただきたいと思います。

また、重厚感と洋風建築の美しさを兼ね備えた歴史的建造物であり、映画の撮影が行われたこともあります。

郷土の誇るべき貴重な建造物に興味・関心をもっていただく機会として是非ご活用ください。

○ 新潟県政記念館
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-3
TEL 025-228-3607
URL http://niigata-bs.sakura.ne.jp/si/kensei/

インフォメーション

●県立近代美術館　（長岡市）

【企画展】

サンダーソンアーカイブ
ウィリアム・モリスと英国の壁紙展

「生活の中に美を」という考えを提唱したウィリアム・モリス(1834－96)は近代デザインの先駆者として知られる。身近な自然の草花をモティーフとしたパターンデザインは今でも人々を魅了。居心地の良い生活空間を演出しています。

本展では、英国有数の壁紙会社サンダーソン社に保管されている貴重な壁紙と版木約130点によりモリスの壁紙を中心とした英国壁紙デザインの変遷を辿ります。

ウィリアム・モリス《ピンパーネル（るりはこべ）》　©Morris & Co.

○会　　場　　県立近代美術館　企画展示室
○会　　期　　４月４日（土）～５月31日（日）
○休 館 日　　月曜日　※５月４日(月)は開館
○開館時間　　午前９時～午後５時
　　(観覧券の販売は午後４時30分まで)
○観 覧 料　　一般1,200円（1,000円）
　　高校・大学生1,000円（800円）
　　中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金です。
※障害者手帳､療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付で御提示ください。

【コレクション展第１期】

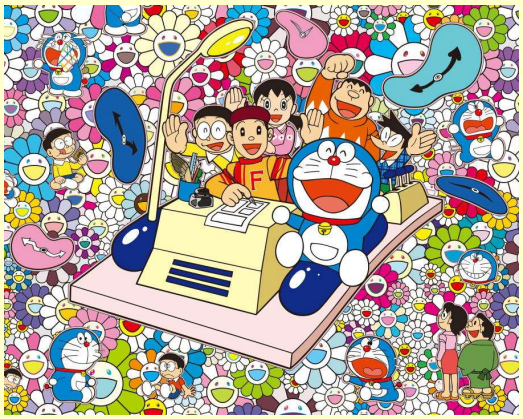
展示室1「近代美術館の名品」
展示室2「バード・サンクチュアリー鳥たちの造形ー」
展示室3「静謐ー蕪木研爾の世界」
○会　　場　　県立近代美術館 コレクション展示室
○会　　期　　４月１日（水）～６月14日（日）
○休 館 日　　毎週月曜日　※5月4日(月)は開館
○開館時間　　午前９時～午後５時
　　(観覧券の販売は午後４時30分まで)
○観 覧 料　　一般430円（340円）
　　高校・大学生200円（160円）
　　中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金です

県立近代美術館
住所　長岡市千秋３丁目278－14
TEL　0258-28-4111
URL　https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/

●県立万代島美術館（新潟市）

企画展
「THE ドラえもん展 NIIGATA 2020」

【重要なお知らせ】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開幕を延期しておりましたが、感染予防の対策を講じ、下記の通り会期を変更して開催します。今後の状況により予定が変更になる場合は、万代島美術館および主催者ホームページやツイッター、テレビ等でお知らせします。



村上隆「あんなこといいな　出来たらいいな」（部分）
©2017 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.　©Fujiko-Pro

「あなたのドラえもんをつくってください」。国内外で活躍する28組のアーティストたちに、こんなお願いをしました。1970年の誕生以来、日本中に夢を届けてきたドラえもん。みなさんの心の中にも、思い出のドラえもんや、いつでもそばで優しく助けてくれるドラえもんの姿が、刻まれているのではないでしょうか。変わりゆくこの時代の中で、アーティストたちに「あなたのドラえもん」を表現してもらったら、どんな世界が生まれるだろう。何を願い、未来へ何を伝えてくれるだろう。この展覧会のために、様々な発想や技法によって生み出された作品をお届けします。

○会　　期　**４月１日(水)～６月７日(日)**
○休 館 日　**４月６日(月)、４月20日(月)、５月11日(月)、５月25日(月)※要確認**
○開館時間　午前10時～午後６時
　　(観覧券の販売は午後５時30分まで)
○観 覧 料　一般1,400円(1,200円)
　　高校・大学生1,200円(1,000円)
　　中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金です。
※障害者手帳、療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付で御提示ください。

県立万代島美術館
住所　新潟市中央区万代島５－１
　　朱鷺メッセ内万代島ビル５階
TEL　025-290-6655
URL　https://banbi.pref.niigata.lg.jp/

●県埋蔵文化財センター（新潟市）

企画展「縄文の巨木柱とマツリ－糸魚川市 寺地遺跡」

縄文時代晩期の巨木柱と配石遺構が見つかっている糸魚川市の国史跡　寺地遺跡。巨木柱の周囲から大量のヒスイや焼けた人骨などが出土し、特殊なマツリが行われていたと考えられます。

本展では巨木柱や石棒、遮光器土偶、赤漆塗竪櫛、ヒスイ、磨製石斧のほか、縄文時代では県内２例目となる丸木舟を展示し、寺地遺跡の魅力に触れていただきます。

○会　期：４月10日（金）～８月23日（日）
○時　間：午前９時～午後５時
○会　場：新潟県埋蔵文化財センター
○休館日：期間中休館日なし（予定）
○観覧料：無料

【寺地遺跡の配石遺構（縄文時代晩期）】
写真提供：糸魚川市教育委員会

県埋蔵文化財センターでは学校向けの教育支援プログラムを用意しています。詳しくはホームページを御覧ください。

新潟県埋蔵文化財センター
住所 新潟市秋葉区金津93番地１
TEL 0250-25-3981
FAX 0250-25-3986
E-mail niigata@maibun.net
URL http://www.maibun.net

まいぶんちゃん

※ PDFファイルでご覧の方は、下線部（Webページアドレス）をクリックすると、直接該当Web ページにジャンプしますので御活用ください。
※県ホームページからバックナンバーも御覧いただけます。「**新潟県 教育月報**」で検索してください。

教育月報

発行所　新潟県教育庁総務課
所在地　〒950-8570
新潟市中央区新光町４番地１
電　話　025-280-5587　ＦＡＸ　025-285-3766
E-mail　ngt500010@pref.niigata.lg.jp
Web版URL　http://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kyoikusomu/
本紙に関する御意見がありましたら、お寄せください
＜無断転載を禁ず＞